

ヒガンバナの頃

9月に入って1週間が過ぎた頃、校庭の片隅でヒガンバナが咲き始めました。



この赤い色は遠くからでも目立ちますね。

ヒガンバナは不思議な花です。

一般に草花は、発芽した後に葉を広げ、光合成をして得た養分をもとに成長していきます。そして、十分成長したところで花を咲かせ、実をつけます。

光合成については6年生、「植物の発芽や成長」「花から実へ」は5年生で学習します。



地面から直接花茎を伸ばすヒガンバナ。

ところが、ヒガンバナの花の根元には葉はありません。秋になるといきなり地面から花茎を伸ばし、葉を広げることなく花を咲かせます。地下には球根があり、光合成ではなく球根にたくわえられた養分を使って花を咲かせるのです。

花が終わってから、ようやく葉を広げ、冬の間光合成をして養分を球根にたくわえます。夏になる頃には葉は枯れて、地面の下で休眠します。



美しい。でも、近く
で見るとなんとなく
怖いような…。

国語科の物語文「ごんぎつね」の1シーンに、ヒガンバナが出てきます。

秋の七草の一つ、オミナエシ。小さな蝶が花の蜜を吸っています。



翅の裏の模様から、
ヤマトシジミと思わ
れます。

ヤマトシジミは本田小学校ではおなじみの蝶です。

たいてい、運動場のどこかでひらひら飛んでいるのを見かけます。

食草のカタバミは、都市部といえどもいたるところに生えています。

繁殖には十分な環境が整っていると思われます。

ふと、校庭の西の空に目をやると…。



昼間なのに月が出て
います。

右側が影になっている月です。この月は、半月よりも光っている部分が広いのですが、ちょうど右半分が影になっている半月は下弦の月と呼ばれます。下弦の月はちょうど真夜中ごろ、東の空から登り、夜明けごろ真南に見えます。なので、午前9時ごろには、少し西に傾いて見え、お昼頃には西に沈んでしまいます。

うまく探すと、昼間でも月を見つけることができます。

月の見かけの形と見える方角や時刻についは、6年生で学習しますが、気をつけて空を見つめれば、学習のための材料はいたるところにあります。

さて、お彼岸の頃に咲くと言われるヒガンバナ。

「暑さ、寒さも彼岸まで」という言葉もあります。

そろそろ厳しい残暑から解放され、涼しい秋がやってくることでしょう。